

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都中野区上高田 2-9-2
園名	ちやいれつく上高田保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「科学」と「恐竜」の教室

<テーマの設定理由>

すぐ近くに大きな公園があり普段から自然や化学に興味がある子が多かった。また中野ゼロホールにプラネタリウムなどの施設もあり家庭でも科学に触れる機会があった。そのため子ども達の科学への興味関心の促進と保護者の化学への興味関心の促進のため計画に至った

2. 活動スケジュール

8月 … 恐竜教室実施（園のホームページにアップ）
9月～12月 … 保護者にアンケートを実施して園内に貼りだして
他の保護者の皆さんへお知らせ
12月 … 恐竜教室実施（園のホームページにアップ）
1月～3月 … 保護者にアンケートを実施して園内に貼りだして
他の保護者の皆さんへお知らせ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・プロジェクターで恐竜や科学の不思議を映し出した。
- ・ジオラマを作り、わかりやすくイメージできるようにした。
- ・恐竜の塗り絵をして楽しく学べる環境作り

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・日々の散歩の道中や公園などで「この石はいつできたのかな?」「石や砂の色が違うのはなんでだろう?」「恐竜とネズミはちがうの?」「今、いろんなキャラクターのモデルで恐竜が使われているけどなぜ恐竜はいなくなったの?」という言葉が多く出ていたので、そういう日々の活動の中から発せられる子どもたちの問いについて改めて考えるきっかけを作っていた。
- ・子どもたちが触って見ることができるよう色の異なる石や恐竜の模型を複数用意した。その中には見るだけのものと触って良いものを分けた。実際に触っても良い石、化石、恐竜の模型はなぜそのような形をしているのか分かり易いものにした。そしてそれを意図的に時代ごとに並べてどう石や恐竜が変化していったかを分かるようにした。
- ・子どもたちだけでなく保護者にも分かるようにプロジェクターで写真を映し出して説明した。石、化石、恐竜に全く興味が無い保護者や子どもたちが分かりやすいように時代ごとにクイズ形式で映し出した。クイズ形式は簡単なものとやや難しいものを用意することで保護者も一緒にクイズに参加することで面白さも感じられるようにした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・保護者と子どもたちが一緒に参加できるような会をしたのでご家庭で保護者と子どもが話をしてもらえた。
- ・保護者からのアンケートという形で様々な意見を伺った。その保護者からのアンケートで出た意見を園内に掲示し、会に参加をしていない他の保護者にも共有した。園内研修で保育者にも共有した。
- ・会に参加していない他の保護者に共有する時は、文字だけだとイメージが付きにくい保護者がいるので、個人情報に配慮をした上で写真等の資料も添えるようにした。



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

保護者にとっても保育者にとっても新たな発見の場となった。「科学と恐竜」いうテーマを通じて子どもたちは昔のことに興味津々。なぜそうなのか？と細かく質問をしたり、また自ら自然や歴史に関して調べようとする姿がみられた。

保護者の皆さんは子どもたちが自ら科学や恐竜に興味をもって調べたい、知りたいという思いになっている姿を見たことで成長を感じられた様子。

このような活動を通じて親と子のコミュニケーションや愛情が育まれる貴重な機会になったと思う。

9月から12月は積極的に子どもたちの反応や興味関心にアプローチをし、子どもたちの発言やアイデアを取り入れながら環境構成や活動を発展させた。子どもたちが科学の図鑑に興味を持ち自ら読む姿が見られるようになっている。そのため科学系図鑑を手の届く場所に置くようにし引き続き会話の中でも恐竜や科学の会話をしている。また恐竜教室を通じて保育者と子どもたちと一緒に図鑑を読む機会が増えた。図鑑を見たり質問をしあうことで科学や恐竜に付随した興味がたくさんわいてきて、子どもたちの描く絵や制作物も変わってきた。子どもたちが自然発生的に恐竜の話をすることで無口な子どもも話をする姿があった。そういう姿を見て子どもは興味や関心から成長していくのだと思った。